

## 『人文研究』本学創立百周年記念号の刊行によせて

学長 山本 眞樹夫

本学は今年(2011年)創立百周年を迎えました。新入生72名を迎え入れて小樽高等商業学校が開学したのは、明治44年(1911年)5月5日のことです。戦後の新制大学発足時には、旧制高商で唯一単独昇格し(1949年7月7日開学)、「実学、語学及び品格」という小樽高商の教育理念と伝統を引き継ぐ特色ある大学として発展してきました。

今年、本学は7月8日の創立百周年記念式典をはじめ、様々な記念行事を挙行し、また学生寮(輝光寮)の復活、史料展示室の拡充整備などの記念事業を行ってきました。この『人文研究』本学創立百周年記念号の刊行も記念事業の一環です。

本学が『商学討究』と『人文研究』という2つの研究紀要を刊行していることは、商科系単科大学としての本学の特色であり、また、この2つの研究紀要は小樽高商以来の「実学、語学及び品格」の育成という教育理念を研究面から支える車の両輪といえます。一般教養を重視し「広くふくよかな新性格を備えた経済人を育成せんとする意図」(大野純一『小樽商科大学開学記念論集』第1分冊「序」)により、『人文研究』が創刊されました(『小樽商科大学百年史(通史編)』小樽商科大学出版会、2011年、777頁参照。)

『人文研究』第1輯が刊行されたのは、復刊『商学討究』と同じく小樽商科大学発足の翌年、昭和25年(1950年)です。『商学討究』第1巻第2号に掲載予定の松尾正路教授をはじめとする4編の「一般教養学科担当教官」の論文を、上に示した大野純一学長の意図により『人文研究』第1輯に収録し(『小樽商科大学百年史(通史編)』前掲、776頁参照。)、以来、この記念号である第122輯に至っています。

このように、『人文研究』は、『商学討究』とともに本学の研究成果を世に

問い、また研究の質の高さを示し続けてきました。他方で、ネットの普及により、大学の研究成果のオープン・アクセス化が進展しています。本学でも学術研究成果コレクション「Barrel」のネット上の公開と充実をはかり、『人文研究』は、誰もがいつでも見ることのできる体制を整えています。ネット上に溢れる研究情報の中で、コンテンツの質の高さ、すなわち掲載研究の質の高さが、以前にもまして問われる時代となっています。

『人文研究』のコンテンツの質を一層高め、従来以上に評価の高い研究紀要となるよう今後とも努力したいと思います。皆様のご協力とご指導をお願いします、『人文研究』本学創立百周年記念号刊行の挨拶と致します。